

鹿児島県トカラ列島

流通の脆弱さをカバーする 農林水産施設を整備

●定住促進●

鹿児島県十島村総務課政策推進室



◆日本一長い村

としまろ
十島村（トカラ列島）は、屋久島と奄美大島間の洋上に点在する七つの有人島と、五つの無人島で構成された南北約一六〇キロメートルにおよぶ「日本一長い村」です。総面積は一〇・一・三六平方キロメートル、もつとも大きい有人島は中之島で三四・四八平方キロメートル、もつとも小さな有人島は小宝島で一・〇〇平方キロメートルです。人と物資の往来には陸便はもちろん、空便もなく、ただ一隻の村営船（フェリーとしま）で行き来できるのみです。

◆離島活性化交付金の活用について

本村の人口は昭和五〇年の一一二〇人から徐々に減少し、平成二二年には六〇〇人を下回り、人口対策が大きな課題となりました。このため、同二二年度から人口激減対策と

して人口対策に取り組みはじめ、同二六年七月末時点で六五七人と小規模ではありますが成果が出てきているところ。

平成二四年六月二〇日に改正離島振興法が可決され、新たな離島振興事業の一つである離島活性化交付金事業が開始されたことから、村では離島振興に新たな施策として離島活性化交付金を活用し、次のような事業を実施しています。

- 交流促進事業：観光のあり方検討事業、十島村・奄美間交流人口促進事業
- 定住促進事業：空き家改修工事、産品等海上輸送費支援事業

・安全安心向上事業：電線等支障木伐採

・離島流通効率化事業：農作物集出荷施設整備、水産加工施設整備、製氷施設整備、フォークリフト整備、フォークリフト倉庫整備、牛積込み用スロープ整備、飼料輸送用コンテナ整備、貨物輸送用コンテナ整備

◆農作物の集出荷施設と水産加工施設を整備

人口対策と同様に、住民の収入源の確保が大きな課題です。I・Uターン者はもちろんのこと、住民のほとんどが畜産業・農林水産業の一次産業に従事していますが、所得水準は鹿児島県で最も低い自治体の一つです。これは、市場が本土のため、出荷が週二便しかない船便により左右されること、海上輸送費がかかるなど、離島固有の「流通の脆弱さ」が要因の一つとなっているためです。

これらの流通の脆弱さをカバーするために、村では海上輸送費支援にあわせて平成二四年度より離島流通効率化事業での農林水産施設整備を進めており、これまでに農作物集出荷施設一棟、水産加工施設二棟を整備しています。なお、本年度は製氷施設三棟の整備が予定されています。

農作物集出荷施設整備では、収穫した農作物の出荷作業用の倉庫と保管用冷蔵庫を整備し、効率的な出荷作業が可能になりました。また、農作物や種作物の長期保管が可能になったことで、船便に合わせた出荷や計画的な作付けが



平島(たいらじま)の水産加工施設。

可能となりました。

水産加工施設では、急速凍結機やプレハブ式冷凍庫・冷蔵庫を備えることで水産物の鮮度保持が可能となりました。また、三枚おろし機や魚肉採取機などさまざまな加工機器



中之島に導入した急速凍結機。カツオ、シビ、タルメ、サワラなどの商品化に活用。



三枚おろしの機械(中之島)。



保存用の冷凍庫(中之島)。

により加工を施すことで付加価値をつけて出荷できるようになりました。さらに、指定管理者として民間業者に管理運営させることで住民の雇用場が確保されました。

製氷施設では、既存施設の老朽化のため新たに日産量の多い製氷機と貯氷庫を整備し長時間の鮮度保持が可能となったことで出漁可能時間が確保されます。あわせて燃料費や労力が軽減されることで、漁獲量の増加が見込まれます。

このように、
離島流通効率
化事業による

施設整備を進めることで本土との格差の是正が図られ、住民の所得向上につながるものと考えています。

◆おわりに

このように、離島活性化交付金を活用し課題解決に取り組んでいるところですが、離島の抱える課題は数多くあり、これら課題の解決のためには離島活性化交付金はまだまだ活用しやすい制度とは言えないのが現状です。離島の実情にあったメニューの拡充や補助率の嵩上げなど、今後さらに活用のしやすい制度となることを期待します。

■